

**「芸術界」にイノベー
ションを起こした作品**

4

問い

5分間のラクガキ

紙に鉛筆でラクガキしてください。

**その時、ちょっと意識してもらいのは
なるべく「他の人と共通点がなさそうな
絵」にすること。**

それ以外は何を描いても大丈夫。

**ただのラクガキなので気楽にサツサッと
描いてみてください**

「13才からのアート思考」

(末永 幸歩)

問い

**グループ内すべてのラクガキの共通点を
さがしてみてください**

「13才からのアート思考」
(末永 幸歩)

問い

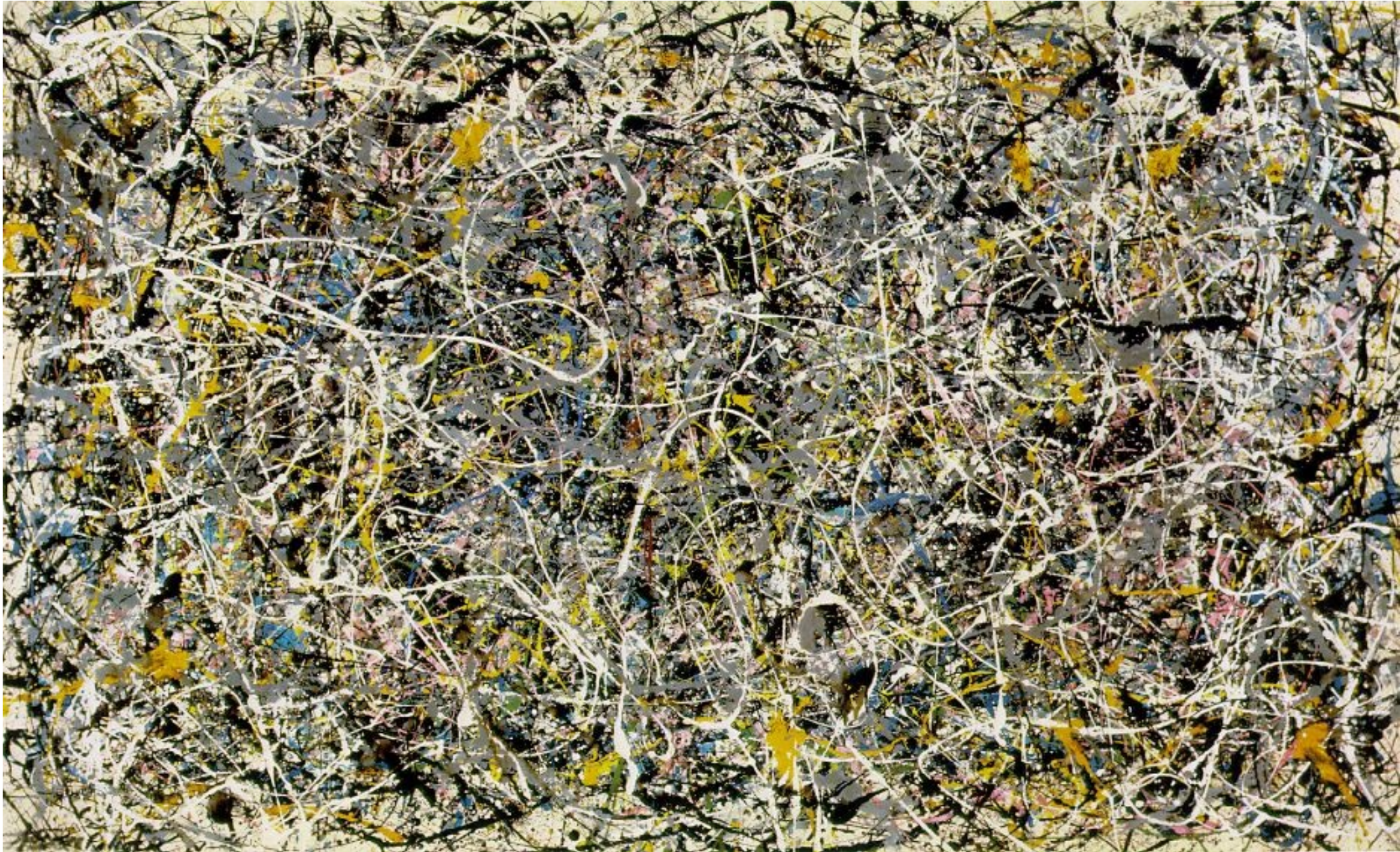
次の絵は、歴代5番目の超高額で取引されたアート作品「ナンバー1A」です。

作者はジャクソン・ポロック、1948年これまでのヨーロッパ中心のアートが戦禍を免れたアメリカニューヨークに移り、新時代のアートが生まれてきました。

まずはアウトプット鑑賞してください。

「13才からのアート思考」

(末永 幸歩)



ワーク

この絵(ナンバー1A)がアートにどのような変革(イノベーション)を起こしたのでしょうか？

まずは5秒ほど、「窓」に目を向けてください

今度は「床」に目を向け、5秒数えてください。

問い

まず振り返ってもらいたいのは、「窓」を見た時のことです。

**あなたの目には何が映っていましたか？
映っていたものを提出箱に書いていれて
ください**

「13才からのアート思考」
(末永 幸歩)

**あなたの答えは、木々、空、建物・・・など
おそらく「窓の向こうにある景色」とした人
が多いのではないのでしょうか。**

**「透明な窓ガラス」「窓そのもの」を見つめ
た人はいないだろうと思います。**

**アート作品の中でも絵画はまさにこの
「窓」に似ている。私たちが絵画を鑑賞する
とき、その絵を通してそこに書き込まれたイ
メージを見ている。**

「13才からのアート思考」

(末永 幸歩)

「ナンバー1A」が私たちに見せようとしているもの

「床」を見た時、あなたの目には何が映りましたか？「窓」の時とは異なり、目に入っ
たものは「床板」「絨毯」など「床そのもの」
であるはず。この絵でいうとキャンパスの上
にある「絵具」です。この絵は**私たちの目を**
「物質としての絵そのもの」に向けさせよう
としているのです。

「13才からのアート思考」
(末永 幸歩)

「イメージの裏切り」マグリット



マグリットによれば、この絵は単にパイプのイメージを描いているだけで、絵自体はパイプではないということを言いたかった。本物と見分けがつかないほどリアルにパイプを描いたとしても、やはり絵。どこまで頑張っても絵を超えることができない、だから「これはパイプではない」と記述している。哲学者のポール・コリネは「もうマグリットの絵画を、普通の「見る」という行為ですで見ただけの人なんているんですか？」といい、さらに「絵が指し示すものについて考え、それが考えるものについて考え、それが私たちに考えるように教えてくれるものについて考えなければいけないのだ。」と説明している。ここにマグリットの創作における問題が提示されている。マグリットにとって絵画とは精神分析ではなく哲学なのである。描かれたイメージ（視覚美術）は、視線と技術、つまり芸術家が目と手を使って表現する肉体的な行為であるため、イメージとは芸術家の人格と肉体をそのまま反映する個人的な思い込みのようなものであるとマグリットはいう。

言葉を信じてはいけない

言葉もまた絵画と同じく**現実を指し示すものではない**と分かる。「私は月の上にいる」という言葉を書くことはだれでもできる。そのような嘘を書くことは、現実ではない絵を描く行為とまた同じものである。

この作品はよく、哲学者ミシェル・フーコーが1966年に発表した『言葉と物』を説明する際に利用されることがある。1973年には『これはパイプではない』という著書で主題的に論じられている。

マグリットがよく哲人画家など哲学的なシュルレアリストと称されるのは、本作が要因となっている。

問い

**ここまでの流れを踏まえて最初の質問を
もう一度繰り返します。**

**「グループ内すべてのラクガキの共通点を
さがしてみてください」**

「13才からのアート思考」
(末永 幸歩)

もう気づいた人も多くいるのでは？

そう、全部の共通点は・・・

「紙の上に黒鉛と粘土の混合物（鉛筆の芯の成分）がこすりつけられて乗っかっている」ということ

2歳児



おやうじてるねん



JRのきらいでんしゃ



こまろ いはれい
おまけにまたこまろがうけた



おやうじてるねん
どこにうけたか



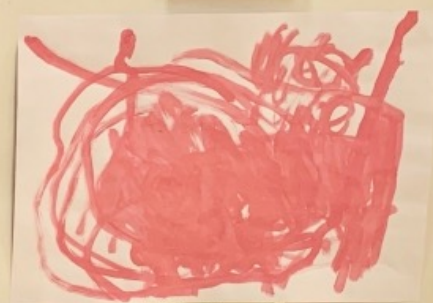
しやうなんもノレノレ



おぼろのおうち



こまろ
こまろがうけた



おやうじてるねん



おやうじてるねん



おやうじてるねん



だんごまのいはい



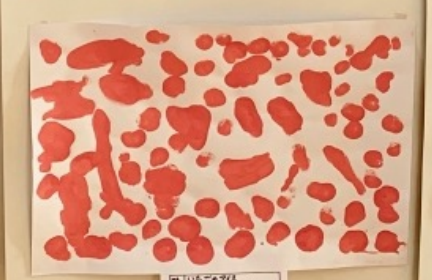
おやうじてるねん



おやうじてるねん



おやうじてるねん



おやうじてるねん



おやうじてるねん



「13才からのアート思考」
(末永 幸歩)

問い

2歳の子どもが描いた絵を見て、あなたがこの子どもになったつもりでこの描いた絵を説明してみてください。

2歳の頃は手首から指先へと発達していくのでつまむことが出来、その指先に集中して目で見ることが出来るようになる。今までのお絵描きは手の動きを楽しむものだったが、自分の描いた線を目で追うようになると今まで描いた線とこれから描いていく線を見比べたり、どこまでこの線を描いていこうかという事も考えられる。

これからの未来を考えながら進めることが出来、ただやみくもにグルグル描いていた丸が閉じ始める。これは今まで描いていた絵との大きな変化の現れで、絵と言葉と思考が結びついて広げていく貴重な第一歩となる。

増田智子のアートを身近に楽しむ暮らし